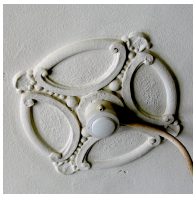
2018 SHEC©まちづくり会議 平成30年3月3日(土)

主催／公益社団法人　静岡県建築士会：景観整備機構まちづくり委員会・静岡県ヘリテージセンター「SHEC」



1928年に築造された旧浜松警察署が、2013年11月から「鴨江アートセンター」と改名され、浜松市民のアート活動の拠点として、さまざまなイベントが展開されています。戦前・戦後の激動の記憶をその躯体や肌に染込ませ、当初の役割は終えたとはいえ、市民と共に様々なストーリーが折り重ねられた舞台でした。現在、アートのステージとして第三の役割を担い歩み出した、この「鴨江アートセンター」を今回の会場として、ともに昭和初期の建物であり、道路に面して向かい合わせに建つ木下恵介記念館（旧浜松銀行協会）とを巡る建物見学会。そして、街中に眠る歴史的建造物の開拓やその利活用に、精力的に活動されている建築史家の倉方先生をお呼びして、講演会ならびにシンポジウムを開催します。

●併設
鴨江別館パネル展

「生きた建築の見方、見つけ方、楽しみ方」

参加無料
※交流会費は除く。

13:00~ ---------建物見学会受付開始

13:30~14:30---「昭和の建物見学会」

●ともに昭和初期の建物、鴨江アートセンター(旧浜松警察署)と木下恵介記念館(旧浜松銀行協会)を見学します。

14:30~ ---------講演会受付開始

14:45~15:45---「倉方俊輔 講演会／生きた建築の見方、見つけ方、楽しみ方 」

●建築史家。大阪市立大学大学院工学研究科准教授。1971年東京生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業、同大学院修了、同大学院博士課程満期退学。伊東忠太の研究で博士号を取得後、西日本工業大学准教授などを経て、2011年より現職。
著書に『東京モダン建築さんぽ』(エクスナレッジ)、『ドコノモン』(日経BP社)、『吉阪隆正とル・コルビュジエ』(王国社)。
共著に『これからの建築士』(学芸出版社)、作家・柴崎友香さんとの共著『大阪建築 みる・あるく・かた る』(京阪神エルマガジン社)、文筆家・甲斐みのりさんとの『東京建築みる・あるく・かたる』(同上)ほか。
2017年、日本最大の建築公開イベント「イケフェス大阪」(生きた 建築ミュージアムフェスティバル大阪)を含む一連の取り組みにより、日本建築学会賞（業績）を共同受賞。

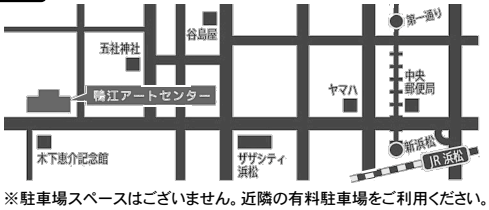
15:45~17:00---「シンポジウム／歴史的建造物利活用のゆくえ」

コーディネーター／堀内秀哲：静岡県建築士会まちづくり委員.
倉方俊輔：大阪市立大学准教授.
青木明子：アートコーディネーター
乾　久子：美術家
伊藤哲郎：建築士(静岡県建築士会)
※後半は質疑・フリートークタイムとします。

17:30~19:30---「交流会」

会場を替えて街中の居酒屋で開催。
会費：4,500円。

会場 鴨江アートセンター：浜松市中区鴨江町1番地.



※駐車場スペースはございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

連絡先 公益社団法人/静岡県建築士会
TEL.054-254-9381.
FAX.054-273-0478.
E-mail　honkai@shizu-shikai.com

お申込 参加ご希望の方は、2月17日迄にFAXまたはEメールにて、下記の「参加票」にてお申込み下さい。先着50名様迄とさせていただきます。

SHECまちづくり会議

参加票

氏名：
住所：
当日連絡先TEL:
所属：建築士会会員　　又は一般参加

13:30~見学会
14:45~講演会
15:45~シンポ
17:30~交流会

※会員・一般参加いずれかに○、参加希望項目に○をお書き込み下さい。